

第4回竹原市立学校適正配置懇話会 議事録

午後2時00分開会

1 日 時 令和3年9月2日(木)

午後3時30分閉会

2 場 所 竹原市役所 3階 第1・2委員会室

3 議 事

- (1) 学校訪問について
- (2) コミュニティ・スクールについて
- (3) 保護者アンケートの結果について
- (4) 市立学校の適正配置及びブロック制の再編について
- (5) その他

○山口係長

本日は、お忙しい中、第4回竹原市立学校適正配置懇話会に御出席いただき、ありがとうございます。今回の会議では、前回同様、発言する際には、マイクを使用させていただきます。それでは、会議を始める前に資料の確認をさせていただきます。事前にお送りしております会議次第、懇話会スケジュールの変更について、パワーポイントの資料、保護者アンケート集計結果、令和3年度教育要覧になります。以前、教育要覧をお配りしましたが、令和3年度版ができましたのでお送りしております。本日机の上に「保護者アンケート」の最終版と配席表を置いておりますが、ない方はおられませんか。本日の議題ですが、第2回で議論しました「諮問事項(1)の市立学校の適正配置及びブロック制の再編について」時間があまり取れませんでしたので、今回再度議事(4)とさせていただきます。これに伴いまして、懇話会を1回増やして全7回とし、全体スケジュールを別紙のとおり変更させていただきたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。今後も進行状況によって、スケジュールを変更する場合がありますので、ご了承ください。それでは、ここからの進行は、小原会長にお願いしたいと思います。小原会長、よろしくお願いいたします。

○小原会長 ただいまから、第4回竹原市立学校適正配置懇話会を開催いたします。まず、始めに議事（1）学校訪問についてです。7月13日に学校訪問ということで、仁賀小学校、東野小学校、吉名学園を訪問し、学校や子供たちの様子をご覧いただきましたが、事前にお配りしたシートをもとにそれぞれの学校の良さや今後に期待する点、複式学級や義務教育学校の感想や意見等を何人かの委員に発言していただき、今後の議論に活かしていきたいと思います。欠席されている〇〇委員から事前に質問・意見を預かっておりますので、事務局から紹介してください。

○山口係長 〇〇委員から事前に学校訪問の感想について意見をいただいております。各学校とも地域とのつながりが強く、教育の立場だけで特に小学校は統合とか廃校を考えてよいのか疑問に思います。もちろん私自身も学校訪問するまでは統廃合に関しまして、教育の立場や財政状況、また教職員不足の観点から賛成でしたが、学校という存在が地域に対する影響は計り知れないと思いますので、まちづくり・自治会等を通して意見を聞く必要性を感じました。また、今年度からスタートしましたコミュニティ・スクールに関しましても、もし統廃合としていくなら、今後どうしていく方向なのか知りたいと考えています。以上です。

○小原会長 〇〇委員の書かれた内容は、私もほとんど同感でした。どなたか発言されたい方はおられませんか。

○委員 学校訪問の時にも言わせてもらいましたが、複式学級は指導方法について経験と細かな配慮が必要だとよくわかりました。もう一つ、コミュニティ・スクールの絡みになるのですが、吉名学園を見させていただいて、地域の課題を踏まえて地域の課題と結合させた取り組みというのは、これから先にコミュニティ・スクールでいろんな実践をしていく時に非常に参考になる事例だったと思いました。もう一つ、それぞれの学校が持ち味を活かして何を発信していくかというところを、コミュニティ・スクールにしても、義務教育学校にしても、外に向けてどういうふうに発信してくのか

ということが大きな課題になるのではないかということを経験で感じました。

○小原会長

今回の竹原市の適正配置懇話会の大きなストーリーと言いますか、これからの竹原市の学校教育を考えていく時に、考えないといけないのは、一つは近未来を想定した時の竹原市の子供たちを取り巻く環境の現状があり、そこにある課題、一番はだんだん小規模化してきている課題ですが、これをどう乗り越えていくかということです。もう一つは課題を乗り越えていくだけではなくて、竹原市がこれまでずっと大事にしてきた教育の理念というか目指す子供像、あるいは新学習指導要領が今求めている教育の目標、そういう目標に向かってどんなふうに学校教育を用意すれば竹原の子供たちを育てられるかという課題と、同時に目標に向かってどんな設計図を描いたらよいかということです。それと同時に地域住民、特に保護者の方々あるいは子供たちがどういうニーズを持っていて、どういう教育を求めているのか、それから竹原市自体は巨大な都市ではありませんけど、逆に言うと地方の小さな都市であるがゆえに地域の教育力あるいは学校に対する期待も大きいので、そういうコミュニティ・スクールのような地域性を活かしたような取り組みとしてどんな学校教育が考えられるか、こういった点を皆さん方の議論の中から出していただいて、それらを集約するような形で、将来設計のデザインができたというのが今回大きな流れでした。そういう点でいうと、先々月訪問させていただいた仁賀小学校、東野小学校、吉名学園はかなり先に明るい未来の兆しが見えたなというふうに私には思えました。それは何かというと、訪問したどちらの学校も小規模で、吉名学園も小規模ですけれども、非常に地域密着型で先ほども発言があったように、地域の課題をどう乗り越えていくかを子供たちが考えていく、あるいは地域の、ふるさとの文化や伝統を受け継ぎながら、どう地域に貢献していくかということをお子さんが考えているという地域密着型の教育をきちんとやっています。同時に先生方が一人一人に向き合っ

て、きちんとして子供たちの力を引き出そうという取り組みも述べられていて、人数が減らないのであれば、非常に特色ある取り組みをされています。こういう学校は、小さくてもきらりと光っているので、残していきたいというふうに思いました。非常に真面目に教育に取り組まれていると思えました。同時に、それぞれの学校それぞれ特色がありますが、育てたい子供像については、かなり共通しているところもあると思えました。そういう点でいうと、竹原市のような人口規模の中で子供たちに最適な学習環境を活かしていくやり方の1つとして吉名学園のようなやり方があるのではないかと感じました。今回の学校訪問を通して、これから我々が出口として求めている適正配置の大きなデザインのヒントが隠されているのではないかと思いました。このまま10年20年先、何もしないでおけばむしろ子供たちが支えるふるさとがどうなっていくのかということもありますので、そういう点でいうと今回私はいろんなコメントを学校に残して帰りましたけれども、可能性が見える、遠い先に明かりが見えると言ったら、どこかの首相が言われた言葉ですけれども、そういうものが見えるような見学であったのではないかと感じております。

○小原会長

続きまして、議事(2)コミュニティ・スクールについてですが、地域と学校のつながりの中で、適正配置の議論において、避けて通れないものです。学校運営協議会の委員の方はよくご存じとは思いますが、事務局より改めて説明していただき、委員全員で共通認識を持って議論を深めていきたいと思えます。それでは説明をお願いします。

○富本課長

それでは、私から、竹原市における、コミュニティ・スクール(学校運営協議会制度)の推進について、ご説明いたします。竹原市では、令和2年度に、忠海小学校・中学校、竹原小、吉名学園の4校で3つの学校運営協議会を設置し、コミュニティ・スクールとしてスタートしました。そして、令和3年度、新規に8校に学校運営協議会を設置し、市内全ての学校がコミュニティ・スクールとしてスタートしました。まだまだスタートし

たばかりで、特に今年度スタートしました8校の学校運営協議会はコロナ禍の中、手探りの状況ではあると思いますが、一步一步進んでいる状況です。今年度、地域とともにある学校づくりを進めていく仕組みとして整備したところでございます。コミュニティ・スクールについては、すでにご理解いただいている方もいらっしゃるかと思いますが、少し仕組みについて説明させていただきます。これまでは資料の右側にありますように、学校評議員を委嘱し、校長の求めに応じて学校運営に関する意見を述べることができるとされてきました。これからは、左側の枠の中にありますように、学校へ学校運営協議会を設置し、地域の皆さんの参画による学校運営の実現を目指すこととなります。コミュニティ・スクールとは、学校運営協議会、学校の運営に関して協議する機関でございますが、これを導入した学校のこと、学校運営に地域の皆さんの声を生かす仕組みのことです。この学校運営協議会は、保護者代表、地域住民、有識者などで構成し、学校運営の基本方針や学校に必要な支援などについて様々な立場で協議し、それぞれの立場の皆さんが学校運営に主体的に参画する仕組みであります。この仕組みを活用しまして、学校運営に地域の声を積極的に生かし、地域と一体となって特色ある学校づくりを進めていくことができます。つまり、育てたい子供たちの姿や、目指すべき教育のビジョン、これを保護者や地域の方々と共有して、その目標が実現するように、ともに協働していく仕組みが、コミュニティ・スクールです。当然、多くの保護者や地域の皆さんを巻き込んでいかないとこの仕組みや活動は成り立ちません。そのための「ハブ」として機能、これはネットワークの中心に位置するものですが、この「ハブ」としての機能となるものが学校運営協議会です。なお、この学校運営協議会は、教育委員会の下部組織でもありますので、委員は特別職の非常勤公務員であり、責任ある立場となります。また、学校運営協議会は、個人の意見が尊重されるのではなく、さまざまな方々が集まって議論をする合議体の組織となっております。この学校運営協議会に

は、主要な3つの機能がございます。1つ目は、校長が作成する学校運営の基本方針を承認する点です。これにより、育てたい子供像や目指す学校像等に関する学校運営のビジョンを共有します。共有することを通して、地域住民等が校長とともに学校運営に責任を負っているという自覚と意識が高まるとともに、学校運営の最終責任者である校長を支え、学校を応援する体制ができます。2つ目は、学校運営について教育委員会や学校に意見を述べる点です。当該学校の運営全般について、教育委員会又は校長に対して主体的に意見を申し出ることができます。ただし、その意見は、個人の意見がそのまま尊重されるのではなく、保護者や地域住民等の代表による合議体としての意見となります。3つ目は、教職員の任用に関して意見を述べる点です。学校の課題解決や教育活動の充実のために校内体制の整備充実を図る観点から、教職員の採用やその他の任用に関する事項について、直接、任命権者に対して一般的な意見として述べる点です。こうした機能のもと、しっかりと当事者意識をもって学校運営に関わっていただけるものと思っております。ただ、ここにありますように、あくまでも、学校運営の責任者は校長先生であり、学校運営協議会が校長先生の代わりに学校運営の内容について決定・実施するものではありません。では、なぜ今このコミュニティ・スクールを進めているのかということですが、竹原市では、一昨年度来、コミュニティ・スクール導入の準備を進めてまいりました。これには、大きく2つの流れがございます。一つは、コミュニティ・スクールに関する法律の改正が挙げられます。平成29年3月、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の改正により、教育委員会に対して、学校運営協議会の設置の努力義務が課されました。これにより、我々はコミュニティ・スクール導入へ向けた動きをつくってきたわけです。もう一つは、社会の状況の変化が挙げられます。子供たちを取り巻く環境や学校が抱える課題は、複雑化・多様化しており、こういった課題を解決していくためには、学校だけで、家庭

だけで、地域だけでは困難な状況になってきております。そのため、これからの子供たちの育成には、学校と地域の連携・協働が重要であると言われております。子供たちを取り巻く環境や学校が抱える課題、地域が抱える子どもたちの育成の課題に対して、「誰かが何とかしてくれる」のではなく、学校、地域、家庭がそれぞれ教育の「当事者」として、自分たちの力で学校や地域を創り上げていくことが大切であると考えます。つまり、子供や学校の抱える課題の解決、未来を担う子供たちの豊かな成長のためには、学校と地域がパートナーとして連携・協働し、社会総掛かりでの「教育の実現」が不可欠となってきております。こうした背景がありまして、全国的にコミュニティ・スクールの導入が進んでいるわけです。では、全国のコミュニティ・スクールの導入状況について見ていきます。公立学校におけるコミュニティ・スクールの数は、9788校で導入率は27.2%です。前年度から2,187校増加し、導入率も5.9ポイント増加しております。そのうち、公立小・中・義務教育学校に限定すると、コミュニティ・スクールの数は、8681校で導入率30.7%です。ただし、このデータは昨年度7月に発表されたもので、同様の調査は今年度ありませんので、一年経って今年度はさらに増加していると考えられます。一方、広島県は全国と比較すると、コミュニティ・スクールの導入率は低く、全国の平均30.7%に対し10.7%の導入率にとどまっております。広島県においては、県立学校は令和元年度から100%全ての学校がコミュニティ・スクールとなっておりますが、市町によっては、まだこれからというところも、順次導入していく方向であると聞いています。では、そのコミュニティ・スクールを進めていくことで、どのようなことが期待できるのでしょうか。今からお話しする内容は、今すぐこうなるという意味ではなく、この先何年かかけてコミュニティ・スクールが軌道に乗り、その結果、それぞれの立場にとってこのような効果、魅力が生まれてくると期待されていることですので、ある意味理想かもしれませんが、期待しつつ参

考に聞いていただければと思います。まずは、学校にとっての魅力についてです。1点目は、地域の人々の理解と協力を得た学校運営ができるという点です。学校運営協議会を通して、地域の声を活かした学校経営を行うとともに、地域の皆さんの協力を得ながら、教育を推進していくことができますということです。2点目は、地域人材を活用した教育活動を充実させることができるという点です。1点目と関連しますが、地域には、子供たちにより専門性の高い学習機会を提供してくださる人材がたくさんおられます。これまでも、各学校の授業に、ゲストティーチャーとして来校いただいた方が多数おられると思います。本物に触れるという意味でも、そのような地域人材を積極的に活用していただきたいと思いますし、学校運営協議会がこのような地域人材の発掘についても大きな役割を果たすのではないかと期待しております。3点目は、子供たちと向き合う時間が増えるという点があります。コミュニティ・スクールを推進していくことにより、学校が担うべき役割と地域が担うべき役割を整理する中で、その結果として、子供と向き合える時間を生み出すことができると考えます。これまでも、地域の方から「言ってくればやったのに、任せんさいや。」という声をかけていただいたことがあります。学校から地域へ一方向にお願いするのは遠慮してしまうということもありますが、そこへ学校運営協議会が入り、うまく橋渡しをしているという事例もあります。では、地域にとっては何のような魅力があるのでしょうか。1点目は、経験を生かすことで生きがいや自己有用感につながるという点です。先ほどの、授業等のゲストティーチャーもそうですが、地域には素晴らしい人材が多数おられます。そういった方々が子供たちや学校に関わり、これまで培ってこられた力を発揮していただくことを通して、やりがいを感じていただけるのではないかと考えます。2点目は、学校が地域の拠り所になるという点です。3点目は、学校を中心とした地域ネットワークが形成されるという点が挙げられます。この2点目と3点目は、社会教育の観点から、地域交流

センターとともに、学校も地域の教育の拠点となり、地域の方による子供たちの教育への参画や生涯教育の推進を通して、地域のつながりを図る場としての役割も期待できると考えます。本市においてはまだ立ち上がっておりませんが、「地域学校協働活動」の推進の向けても期待されるところです。4点目は、地域の防犯・防災体制等の構築ができるという点があります。続いて、子供にとっての魅力についてです。1点目は、「多様なコミュニティ」に参加し、「多様な活動」を体験し、自分を表現できるという点です。積極的な地域との関わりの中で、学びや体験活動の充実を図るとともに、自己肯定感の育成、ふるさとへの愛着や誇りを高めていくことが期待できます。2点目は、地域の担い手としての自覚が高まるという点です。地域の行事等に関わる中で、地域の一員であるとの意識を高め、将来的に地域を担う存在としての自覚を持たせていくことができると考えます。3点目は、防犯・防災対策等による安心・安全な生活の保障という点です。地域の皆さんに見守られているという安心感を持ちながら、地域で生活していくことができるという点です。最後に、家庭にとっての魅力についてです。1点目は、学校や地域に対する理解が深まり、家庭教育との相乗効果が生まれるという点です。学校のことは学校ではなく、家庭においても学校と連動した家庭教育の推進につながります。2点目は、地域の中で子供たちが育てられているという安心感があるという点です。先ほどもありましたが、子供たちは、地域の皆さんによって育てられているというコミュニティを構築することが大切です。3点目は、保護者同士や地域の人々と人間関係が構築できるという点があります。学校と地域のつながりの中で生み出される教育の推進に家庭も積極的に関わり、保護者同士のみならず、家庭と地域のつながりも強めていくことができます。昨今、地域から孤立した家庭における虐待等も社会的な問題となっています。とかく都会では、こういった傾向が強いと言われますが、やはり地域とのつながりの弱さが課題として挙げられます。こういった課題も、地域の力で

解決できるのではないかと期待されています。それぞれの立場にとってのコミュニティ・スクールの魅力について話しましたが、多くは理想にすぎないかもしれません。しかし、子供たちを取り巻く環境が大きく変わり、子供たちに関わる課題は容易に解決できないものも多々出てきております。だからこそ、コミュニティ・スクールを通して、みんなで学校や地域、子供の課題について知恵を出し合い解決していく体制が必要となっているのだと思います。昨年度の先進4校3学校運営協議会の実践を紹介したいところではありますが、時間の都合で本日は割愛させていただきます。なお、竹原市教育委員会のホームページに昨年度の実践を紹介しておりますのでそちらもぜひご覧いただければと思います。最後になりますが、今回の本懇話会による保護者アンケートでは、コミュニティ・スクールや竹原市におけるコミュニティ・スクール導入の認知度の低さという課題が明らかになりました。これまで教育委員会からも各学校からも、しっかり情報発信してきたところではありますが、周知が十分ではなかったということから、引き続き、様々な機会を通じてしっかり情報発信、周知していきたいと考えております。そうは言いましても、コミュニティ・スクールはスタートしておりますので、これまで培ってきました、学校と地域の信頼関係をいかしつつ、この学校運営協議会制度、コミュニティ・スクールが、学校にとっても、そして、地域にとっても、魅力ある持続可能な制度として根付かせていきたいと考えているところでございます。

○小原会長

ありがとうございます。なお、コミュニティ・スクールについては、今日は質疑の時間は取っていませんが、御意見はありますか。先ほどのデータにもありましたように、全国的にはまだあまり普及していませんが、竹原市はむしろ先進地というか市内全校でコミュニティ・スクールをスタートさせて、大きな教育政策として掲げて取り組んでいこうとしていると思います。ただ、その割には認知度が5割くらいだったので、広報の課題もあると思いますけれども、コミュニティ・スクールの持つ可能性とか魅力

とかいうものは、実際はやっぱり子供が育って確かに力がついたなあという実感がなくなかなか納得はできないんだと思います。でもよく考えてみたら、我々の子供のころは元々、義務教育はコミュニティ・スクールだったはずなんです。みんながおらが町おらが村の子供を育てていくという目で子供を見ていましたし、地域の教育力、「竹原力」というか地域の教育力を全て子供にという気持ちがあるのだと思います。移民が外国に行ってコミュニティを作っていくって、欧米の人が最初に作るのは教会なんです。ところが、日系移民が最初に作るのは学校です。例えばハワイなどで教員になる人は日系人が圧倒的に多いです。例えばハワイなどで教員になる人は日系人が圧倒的に多いです。それはやはり、日本人は教育に大きな期待をかけていて、大学卒業まで親が学費を出すというまれな国民性を持っていて、大学を4年間22歳で卒業できるというのは日本人が圧倒的に多いです。欧米の場合は子供が自分で学費を稼ぐので、大学を休学したりして卒業するのは30代40代までかかるということもあるようですが、私は、本来義務教育はコミュニティ・スクールだし、竹原市のような地域の教育力が高いところは、全市的に取り入れることが大きな教育改革としては意味があるのではないかと思います。だんだん会議を踏むにしたがって、このコミュニティ・スクールの魅力を少しずつ感じているんですけども、委員さん方からコメントはございますか。

○委員

先ほど御説明の中に専門性の高い人材というお話もありましたが、いろんな方々が子供を認め、称えて励ますという形で子供たちをしっかりと評価してあげると、子供たちの元気や笑顔が増えていくような地域の方々との関わりもできてくるのかなと思いました。もう全市的に学校運営協議会を設置されたので、そういうことができるかと思います。先ほど会長がおっしゃっておられたような、おらが町の中で子供たちを叱るのも褒めるのもどんどんできる体制の地盤ができたのではないかという気がいたしました。

○小原会長 ありがとうございます。その他の方よろしいですか。それでは、続きまして議事（3）「保護者アンケートの結果について」ですが、それでは、事務局より説明をお願いします。

○山口係長 それでは、私の方から6月に行いました保護者アンケートについて、御説明いたします。配布世帯数は、各世帯1枚で904世帯、回収につきましては、学校に御協力いただいたこともありまして、875世帯、回収率は96.79%となりました。続いて、集計結果ですが、時間の関係もありますので、要点のみを御説明いたします。以前会長が言われたように、アンケートの集計結果につきましては、答申を作成する上で非常に重要になってまいります。ここでは説明は省きますが、各質問のその他の自由記述欄及び最後の自由記述欄につきましては、別添資料としてまとめております。まず、回答者の属性ですが、女性で30・40歳代が約88%と大部分を占めております。竹原の居住年数は、10年以上の方が約8割となっております。続いて、児童生徒の通学状況です。徒歩が約8割、自家用車が約1割、自転車は8%程度となっております。2つの交通手段を選択された場合は、それぞれに加えております。通学にかかる時間は、約9割が30分以内という結果となりました。続いて、竹原市の学校教育についてですが、満足している、まあ満足しているという回答が合わせて約8割となっております。また、満足されていない方に聞いた問9では、学力面、英語教育、生徒指導等に満足していないということがわかりました。続いて、10年後を見通し、身に付けてもらいたい資質能力について、この質問につきましては最大3つまで選択でき、順位を付けていただく質問になります。集計の都合上、1位の回答については、1票、2位の回答については、1/2票、3位の回答については、1/3票というような形で集計しております。以下、回答に順位を付ける質問につきましては、同様に扱っております。まず、知識・スキル面ですが、コミュニケーション能力、自分の意見を表現する力、物事を判断する力の順に多くなりました。態度・社会

性面につきましては、協調性・柔軟性、多様性に対する適応力、主体性・積極性の順になりました。続いて、竹原市の学校に望む教育につきましては、①子供たちが社会性や協調性を見に付ける機会がある。②子供同士が刺激し合い、学力、体力を高め合うことができる。③一人一人に目が行き届いた、きめ細やかな指導を受けることができる。の順となっています。なお、この間12, 15, 18, 19から26は、別紙のとおりブロックごとにクロス集計しております。これを見ますと吉名ブロックでは、①の割合が他のブロックと比較して、約6%高いなど各ブロックによって違いが見られることがわかります。続いて、コミュニティ・スクールの認知度ですが、「1) よく知っている」「2) 聞いたことがある」を合計すると全体で44%と半数に達しておらず、今後、より一層の周知を図る必要があると考えております。ただ、忠海ブロックと賀茂川ブロックでは認知度が約6割を超え、竹原、吉名よりも大幅に高くなっております。また、昨年度からコミュニティ・スクールとなった忠海学園と吉名学園は、認知度の差が22%あり、今後その要因について調べる必要があると考えております。続いて、人数が多い学校のメリットとしては、①人間関係の幅が広がる。②子どもを多様な意見に触れさせることができる。③クラブ活動・部活動の種類が多い。を挙げている方が多くおられました。デメリットとして、①課題が発生しても教職員が気付かない場合が生じる。②子供への細かい指導が行き届きにくい。③友だち関係が固定し、友人間に序列ができやすい。④一人一人の活躍の場が少ない。という順になりました。先ほどとは逆に、人数が少ない学校のメリットとして、①教職員の目が行き届きやすく、きめ細やかな指導(個別指導)がしやすい。②仲間意識が生まれやすい。デメリットとしては、①友達関係がいつも同じで、友人間に序列ができやすい。②PTA活動等において、保護者の負担が多い。③クラブ活動や部活動の種類が限定される。④多様な考えに触れる機会が少ない。という順になりました。続いて、小規模校対策として適当な方法について、

2)近隣の学校と統合するが35.9%, 3)近隣の小学校・中学校と統合して小中一貫校または義務教育学校を新設するが22.5%で、合計で6割近くの方が統合を選択されています。ブロック別の傾向としては、賀茂川ブロックが、3)小中一貫校か義務教育学校を新設するが38%と他ブロック平均20%の約2倍となっております。また、賀茂川ブロックと吉名ブロックは、他の2ブロックと比較して、「4)複式学級になっても存続させる」の割合が高いという傾向が見られました。続いて、適正規模の学級を問う質問では、1学年2~3学級でクラス替えができる学級数を望む回答が76.3%ありました。ただ、賀茂川ブロックと吉名ブロックは、1学年1学級を選択した方の割合が、30.1%と他ブロックの平均の8.9%の3倍以上という特徴がありました。続いて、適正規模の人数を聞いたところ、20人以上が8割を超え、その中でも20人~24人を選択した方が43.6%で最も多くなりました。ただし、賀茂川ブロックが40.1%、吉名ブロックが25.7%と他ブロック平均と比較して、19人以下を選択した割合が多くなりました。続いて、適正規模にする際に考慮すべきことについては、「1)教育に望ましい児童生徒数・学級数や学校規模」が41.0%、「2)児童生徒の通学距離や通学手段」は、30.2%となりました。また、賀茂川ブロックは、「6)小中一貫教育」の割合が他ブロックの平均の約1.5倍となりました。続いて、通学区域を見直す場合、配慮すべきことについては、「1)通学の安全確保を図る。」が42.9%、「2)遠距離通学の支援(路線バス、スクールタクシーなど)」が46.9%となりました。最後に学校選択制について、現行の中学校選択制は、「とても良い」、「良い」が合計で74.0%と肯定的な声が大半を占めました。また、これからの学校選択制については、「今のままで良い」が42.7%で「小学校でも導入する」35.7%を上回りました。以上で、簡単ですが保護者アンケートの集計結果の説明を終わらせていただきます。

○小原会長

それでは、この集計結果について、少し分析していただいた〇〇委員から、特徴的なことがありましたらコメントをお願いします。

○委員

まず、非常に回答回収率が高くてしっかりと自由記述も含めて、当事者意識を持って、御回答いただいているなという気がいたします。それから30代40代の方が多くて、これは当然のことかもしれませんがやはり未来まで見据えて御回答がいただけているものというふうに理解していいのかなと思います。続いて、通学状況については30分以内というところがかかなりの割合になっております。ここは一つかなり大事な部分になっているのかなと思います。自家用車が9.5%というのもございますけれども、そこは少し気になったところがございます。また、学校教育について、自由記述にもありましたが、学力に対して非常に強い課題というか希望を持っておられると思います。続いて、問10や問11ですけれども、問10の中身を順に追ってみれば、①コミュニケーション能力や②自分の意見を表現する力、これを合わせれば、つまり、しっかりと自分のこと、判断したことを伝える力ということになりまして、協調的な学びが非常に重要になってくるのかなと思います。問11もそうですけれども、仲間と一緒に学び合う、高め合うということが非常に大事なことになってくる学力が目指されている。それから竹原市の将来に向かって学校に望む教育の部分、取り組みですけれども、③から言えば、個を大事にしながら、②の協働的にそして①様々な学力の充実をというふうに皆様が期待されていることがみえてくるという気がいたします。あと、気付いたところをもう少し申し上げますと問18と問19ですけれども、人数が少ない学校のメリット・デメリットというところでメリットは、きめ細やかな個別の指導そして②、③は協働的な関わり合うことのメリットが挙げられていて、小規模であってもむしろメリットとして、個別の指導プラス協働的な学びも充実したものが期待できるという非常に前向きな御回答ではないかなという気がいたします。あと、適当な1学級人数についても少し気になる点がご

ざいます。20人以上が82.4%。しかし、20～24人までというのが最も多いというのは、これぐらいでいいということなのか、それともむしろこれがいいという人数として受け止めることはできないのかなと推察しております。もう少し、アンケートの中身を分析しないとわかりませんが、あまり多すぎることによるデメリットもさっきの資料にございましたし、24人ぐらいまでのところでいろいろと関わり合い、丁寧に指導してもらうことに対する期待があるのかなと感じました。

○小原会長

ありがとうございます。それでは、この結果について委員の皆さん方から質問、御意見がございますか。できれば、全員から発言していただきたいのですが、時間の関係で全員という訳にはいかないのです、ぜひ挙手をお願いします。私も今までいくつかの地域に関わってきましたけれども、アンケート結果については、基本的に皆さん真面目に答えられますので、どの地域でもイレギュラーな結論になるということはないというのが、だいたい感触でわかっているんですけども、竹原市の場合、こんなに自由記述があるんだと、皆さん本当に時間をかけてきちんとしかも前向きに答えられているというのは正直驚きました。20名というのはちょうど欧米の1学級の人数がだいたいそのぐらいなので、日本では40名、少し30台にというふうに国全体としては動きつつありますけれども、竹原市では多いというのもメリットもあればデメリットもあるんでしょうけど、非常にバランスのいい答えで20代と答えられているなと思いました。しかも、複数学級を希望されていて、でもこの理想でいくと竹原市全体で1小1中学校ということも将来的に考えざるをえないということになってしまいますので、理想だけではなくてやはり現実を踏まえないといけないということにはなろうかと思えます。そういう意味では非常にバランスのいい回答が出ているのではないかとデータを見た時には直感的に思いました。

○委員

今回、適当な1学級の人数というところで、私もああそうなのかなと思ったのですが、14、5年くらい前から私が携わりました吉名小・中の方

でも一学級の人数が20人から25人未満という期間が長かったように思います。なぜか5, 6学年に1学年15人くらいの学年があるという特徴がありまして、今は20人の学年があつたり、10人の学年があつたりと多少ばらつきが出てきているのが現状であると思います。アンケートを答えられた方が、大体もうそれぐらいの人数しか経験していない方が多いのかなと推察いたしました。この人数が今の竹原市のスタンダードになっているのかなと感じました。それから、私も関わっているのですが、コミュニティ・スクールの認知度が低いという点におきましては、私どもの吉名の方でもコミュニティ・スクールだよりを作って、回覧板でもう3回くらい告知しているんですけども、アンケートに答えられた世代の方があまり回覧板を見ない世代なのかなと推察しておりますので、また違ったやり方で、学校通じて子供たちに配るというやり方にすればコミュニティ・スクールの認知度はすぐ高まるのではないかと考えております。

○小原会長

ありがとうございます。その他いかがでしょうか。

○委員

学校教育に対して満足度が高いなという思いがしました。その満足度は教育指導、生徒指導、学区の問題とか全体としてとらえた時の信頼度が高いということだと思います。先ほど副会長さんが言われたように、竹原の場合、もう何年にもわたって1学年1学級というのが多くて、スタンダードになっているのかなというのが共通の意見です。ただ、満足していない項目というのが学力面、英語教育、生徒指導の部分ということで、もっとクラブ活動が多いかと思ったんですが、やはり学力に関する期待が高いのかなという思いがします。それと同時に、先ほど言いましたが満足度が全体としては高く、アンケートに答えられた皆さんが本当に全体のことを考えながら答えられているなという気がしたんですけども、やはり保護者にとってみれば当然、我が子の成長を通して学校とは、義務教育とはと考えられるので、きめ細やかな指導を望まれていて、どんな体制であろうとも個に応じた教育をするということを忘れてはいけないという思いで

アンケートを見させてもらいました。それからもう1点、コミュニティ・スクールについて意見の中にあっただと思いますが、4ブロック制がありますけれども、地域の方は地域の将来、地域の共同体づくりをどう考えているのか、学校がなくなると地域共同体にも影響を与える、逆に地域共同体がだめになれば学校にも影響があるという、協働を考えてみた時には両面から考える必要があるんじゃないかと思います。そうすると学校は、今は教育の部分で考えていかないといけないと思うんですが、ある意味では地域が学校にもたらす影響というのが非常に大きいわけですし、今後どのように地域共同体をよりいいものにしていくかということもコミュニティ・スクールに関係があるんじゃないかなと思います。

○小原会長 ありがとうございます。

○委員 私は大井に住んでいますが、昔は大井小学校がありました。それが廃校になり、竹原西小学校に統合されて宿根地区の方がバス通学をしていたのを見て体験しております。このアンケートを見ますと、統合は絶対嫌だというのではなくて、統合した場合に通学の安全確保を図ったり、遠距離通学の場合は通学の手段をきちんとしてくれたら統合してもいいと思っていますと感じました。

○小原会長 私も同じようにやはり仮に再編がなされた場合、きちんと通学保障、安全も含めての保障はしっかりしてほしいという意見がどこの地域でも強いのですが、竹原でもそうだったと思います。

○委員 10年くらい前に、私が放課後児童クラブに勤めていた時、その時には小梨地区からはタクシーで通学していました。そういうことをあちこちで見っておりますから、見ている限り保護者の方は子供が少なくなるので、統合は仕方ないなというふうに感想を述べられているのかなと感じました。

○小原会長 まとめるわけではないのですが、今回のアンケート調査の結果が私たちの適正配置とどういう関係を持つのかなと見た時に、何点か指摘できるのかなと思いました。私は特にこれからの学校教育で大事にしてほしい

い、こういう力をつけてほしいとアンケートに答えている中身が大体「C」のつく英語が多いなと思いました。何かというとコミュニケーション、それから協働性とか協力のコラボレーション、あるいは新しい何かを創り出していくクリエイション、選んでいくこととか判断力はチョイス、場合によっては新しい何かに挑戦してほしいというチャレンジとか、こういう基礎学力とか英語教育と並んで、こういうものに力を入れてほしいというものがあって、そのためにはコミュニケーション、コラボレーション、チョイス、チャレンジということになると、やっぱりある程度の学級規模あるいは人間関係が必要になってきてということ言われているなあと思いました。それと同時に、先ほど委員からありましたけれども、やはりコミュニティがこれからどうなっていくかという話で、これまでは地域がしっかり出て、地域が学校を支えていくというストーリーでしたけれども、地域自体が衰退していく中で、むしろ学校が地域の学び、ふるさと学習をやることによって、地域に残っている伝統とか文化を児童生徒が学んでいることによって、それを支えていく。そういう意味で言うと学校が地域を支える、学校が地域に貢献していくもう一つのストーリーを学校には期待しているというニーズもあるのではないかなと思いました。もう一つアンケートに、それぞれの地域が特色ある教育をやってほしいという自由記述がありました。地域密着型の地域に根差したふるさと学習、伝統文化を学んでいくのもあれば、あるいは国際化に応じたグローバルな学びを展開してほしいというのがありますが、それぞれのブロックでそういう特色ある教育が展開されて、それが選べるようなシステムだったらいいなあという意見も見えらると思いました。義務教育ですから、通学にかかる時間は30分、徒歩、自転車あるいはバスといろんな手段を考えてもやはり30分を大きく踏み出さないというのも重要なのかなと思います。それから場合によってはブロックとブロックの境の地域の子供たちは、どちらか選べる選択肢も残してほしいという地域のニーズはあるんだなと思いました。選択とい

うのはかなり出てきていましたけれども、それぞれの地域が特色ある教育をやるのなら、アートに力を入れている教育を選びたいとか英語に力を入れている教育を選びたいとか、そういう子供たちや保護者の方もいらっしゃるでしょうから、選べるようにいろんな特色ある教育を展開してほしいという御意見もあると思いました。1学級20人で、クラス編成ができる複数学級というのはなかなか実現するのは容易なことではないですけれども、やはり竹原市の大きなベースとなるニーズにはなっているんだろうなと思いました。その辺りからも適正配置についてもヒントが得られたらいいなと思っております。

○小原会長

それでは、続きまして、議事（4）「市立学校の適正配置及びブロック制について」です。この議事は、第2回懇話会で議論しましたが、さきほど事務局からありましたように、時間がなく十分な議論ができませんでしたので、再度議論していきたいと考えております。この部分が今回の適正配置の売りと言いますか、竹原市の学校適正配置を考えていく時の最も特徴的な切り口になるのではないかと考えております。事前にお配りしているシートに従って、それぞれの項目について、発言いただければと思います。なお、議論していく中で、共通認識として、これまで説明してきたブロック制というのは、いわゆる中学校区ということで理解していただければと思います。前回の懇話会から時間が経っており、また、欠席委員も数名おられましたので、事務局から簡単に前回の振り返りをお願いします。

○沖本次長

それでは、私の方から第2回懇話会で議論のたたき台としてお話した適正配置とブロック制について、おさらいの意味を込めまして簡単に説明させていただきます。竹原市の学校は、児童生徒数が少なく、学校教育法施行規則の標準規模を満たす学校はございません。今後も児童生徒数の減少が続きますと、学校訪問で見ていただいた東野小学校、仁賀小学校だけでなく、大乘小学校、荘野小学校、吉名学園前期課程も複式学級になることも避けられない状況でございます。今後、子供たちが生きる社会は、少子

高齢化や人口減少、グローバル化、人口知能の発達など変化が激しいことが見込まれております。そういった中で、令和2年度から施行の新学習指導要領に沿った教育を行うためには、各学年に一定規模の集団があることが望ましいのではないかと考えております。以上のことから、忠海、竹原、賀茂川、吉名の4つのブロック、いわゆる中学校区ごとに義務教育学校を設立し、一定の規模の集団を確保した上で、新学習指導要領に沿った指導を行うことが1つの方向性として考えられるのではと思っております。また、現在ある学校運営協議会につきましては、仮に学校の再編があった場合も、各地域の思いを反映させたり、地域との交流を図るために、何らかの形で残すことを検討する必要があると考えております。ただし、4義務教育学校を設立した後も、少子化が継続する可能性が高いため、更なる将来的に向けては、義務教育学校同士の統合も視野に入れる必要があると考えております。

○小原会長 欠席されている委員から事前に質問・意見を預かっておりますので、事務局から紹介してください。

○山口係長 委員から預かっておりますメモを説明させていただきます。まず1つ目の、10年後を見通して市立学校の規模や地域の状況等は十分かという質問については、十分とは思わないという回答をいただいております。理由としましては、竹原小学校においてもほぼ単学級であり、新学習指導要領の学びを促すことができないためとあります。2つ目の、各ブロックの再編が必要と思うかという質問については、はいという回答で、ブロック制自体の必要性を感じないと回答されています。3つ目のどのような再編が必要だと思いますかという質問については、ブロック制を廃止して特色ある学校づくりをし、自由にある程度選択できるようにすると回答されています。4つ目一定規模の集団を確保し、教育効果を上げるためにブロックごとに義務教育学校を設立することについてどう思われるかという質問については、特色ある学校づくりをし、小学校単独、小中学校一貫、小中高

一貫を設立すると回答されています。最後5つ目ですが、20年後には義務教育学校同士の統合についても視野に入れる必要があると考えられますが、どうするかという質問については、良いという回答で、理由は当然ながらそう考えるべきで、質問4で回答したような小学校単独、小中学校一貫、小中高一貫という形で考えていただきたいと回答されています。以上です。

○小原会長 吉名学園と忠海学園が先行して義務教育学校として竹原市でモデル的にされていますが、竹原市全体でそれが普及、発展していくというイメージで捉えたらいいかもしれません。

○委員 私は今行政に携わっておりますので、意見を申し上げるのは難しい立場ですが、ブロック制について、一つはこの方向でいいのかなという思いがいたします。将来的には児童の数がどんどん減っていくということが懸念される中で、皆さんの御意見の中には、クラス替えができるような人数規模、学級数とありますけれども、私個人的には小学校はできれば比較的近い地域に通学していただくということが、小1と小6ということでは体力面も随分違うと思いますが、地域に根差した学校という形で適当ではないかと思えます。ただ、中学以降になった時にクラス替えができる学校という形が将来にわたってできればいいのかなと思っています。そういった意味で本当に遠い将来を見た時にそれぞれの吉名、北部、忠海と中学校まで全てそれぞれ義務教育学校という形で残していくことが本当にいいのかどうなのかというのは少し疑問符を持っているところです。義務教育学校についてはいわゆる中1ギャップがなく、スムーズに学年が上がることができるとか、中学校の先生に小学校の英語を含めていろんな教科に関与していただくとかいろんなメリットが確かにあると思いますが、全ての地区で義務教育学校を導入すると、先々中学をどうするかという時に影響が出てくるかと少し心配しております。

○委員 小規模であることとクラス替えができるくらいの人数の学校であるこ

ととどちらにもメリット・デメリットがあると思います。学校訪問で仁賀小学校に見学に行くまでは、複式学級はどうかかなと思っていましたが、低学年の子供も自分で考えて勉強できている姿を見て、人数が少ないなりにいいところも多いのではないかと思います。クラス替えできたらいいという気持ちと小学校の間は歩いて行ける近くの学校へ通わせたいという気持ちと両方あって、難しいです。忠海はで小中が一緒になって小学校も2校が1校になって、知り合いから、やはり通学の距離が長いとバス通学になったり、そのバスも低学年と高学年では帰りの時間が違っていたり、いろいろな不安なことも多いという話も聞くので、統合しないままではどうかかなとも思いますが、どちらがいいのか答えを出すのは難しいです。

○委員

北部は児童生徒も少なくなっていて、学校訪問では、仁賀小学校は施設もすばらしくて、強いて言えば先生方が複式学級でしんどそうかなと感じました。北部は小中をいずれは一緒にした方がいいのかなと思います。それと10年20年したら、さらに児童生徒も少なくなっているのが本当に竹原に一つになるのかなと感じています。5年10年先までは、例にあるように、大乘小学校の一部の児童は忠海の方が近いのであれば、無理して竹原中学校に来なくても近い方がいいのではないかと思います。今4ブロックあって、賀茂川中学校が竹原に一つになると通学面の問題が出てきます。アンケートの自由記入欄にも親の負担がということも書いてありましたので、最終的には通学の方法、バスの利用や時間、通学時間にバスの本数を増やすとか、お金のかかる面もあると思いますが、そこを考える必要があると思います。いい面も悪い面も保護者がアンケートに書いているので、私としては近い将来、北部は小中一貫かなと思います。

○委員

先ほども少し言わせていただきましたが、東野小学校と仁賀小学校で、複式学級を見学して、複式学級はかなりの力が必要であると思います。今はオンラインで他校と一緒に行事をすとかいろんな方法があるかもしれませんが、莫大なエネルギーを使うし、そのエネルギーは他に回すほう

がいいのではないかという思いがします。オンライン学習、協働、他の学校と一緒にオンラインでやるとか行事等を一緒にやるというのは、年間を通してこういう時にはというのはいいと思いますが、常態化は難しいと思います。普通学級の人数の件ですが、小原会長が欧米では20人前後だと言われましたが、私もそう思います。議論が深まったり、コミュニケーションをとるための集団は15人から20人で十分ではないかという思いがします。その中でもう1つ考えられるのは、今35人学級という話がありますが、例えば全部の学級は難しいと思いますが、1学年だけ中学3年生、9年生の段階で少人数による学級編成はできないだろうかという思いはあります。先生の理解はいると思いますが、工夫して思い切って20人学級にする取り組みをすとか、その中でより多様な学習形態もできるのではないかと思います。ブロック制の再編についても、地区の一部を変更するという案も出ていますが、地域の理解ももちろんですけども、ある意味では地域を分断するということにつながりかねないと思います。例えば、忠海の場合に大乘の全部というのが一番いいと思うんですけど、大乘の一部というのは、今まで一つの地域で過ごしてきた子供たちを分けるということが、地域共同体にとってもいいのかなと思います。これはコミュニティ・スクールの考えからも教育の観点からもいかなものかという思いで、一面では危惧しているところです。そして、義務教育学校につきましては今年度から忠海学園が始まったのですが、その時に学校運営協議会として竹原市教育委員会からこういうことができる、バージョンアップするという中身をかなり詳しく聞きました。その中で確かに義務教育学校として特徴ある学校づくり、いろんなことができるようになるんだなと理解しました。

○委員 ブロック制の再編については、10年20年先を考えるとせざるを得ないと思っております。

○小原会長 ブロック制をベースにブロック制と義務教育学校はセットなのかもし

れませんが、限られた環境の中で教育の質を保証していくという点での一つの策として、竹原市が掲げられているものだと思います。その再編が必要かどうかあるいは現状に大きな教育効果があるかどうかということで事前にメモが用意されていると思いますけれども、委員さん方の意見が重要になります。

○委員

ブロック制の再編については、なかなか考え方がまとまらないのですが、10年後20年後を見据えた際に賀茂川学園という義務教育学校が必要かどうかと考えると持続することはなかなか難しく、すぐ再編の必要性を感じるようになるのではないかと思います。かといってブロックを越えて特色ある学校という格好で義務教育学校をスタートさせるということになってくると、地域の学校という特性は薄れてきて、コミュニティ・スクールという特性も薄れてくるのではないかと思いますので、どうしたらいいかということが収まりが見つかる回答がなかなか自分の中に出ないというところです。

○小原会長

私も似たような考えです。

○委員

私は東野で小学校と地域をつなぐコーディネーター役を地域交流センターで行っていますが、東野町は急激に児童数が減りまして、今までは単独で行っておりました東野キッズという活動が、人数が少なくなり学校単位で行わないといけなくなりまして、今いろいろ地域活性化も難しいところではあります。ブロック制については、学校訪問で義務教育学校の吉名学園を見せていただいて、本当に子供たちのこと、地域のことを考えて工夫されて運営されているなど感心いたしました。これを北部に持ってきた場合、今まで一つの学校、東野小学校を中心とした地域活性化をしてきたものにとりまして、義務教育学校ができた時に私たち東野の地域が取り残されていくような気がします。吉名は吉名町という一つの町ですが、北部は東野、荘野、仁賀、田万里と各地域がありますので、それを一つにして義務教育学校になった時に地域が取り残されていくのではないかと、今東野

は東野小学校があるというのが魅力で地域活動をしておりますので、ちょっと難しいかなと思っております。ただ、アンケートを見た時に、賀茂川ブロックは「近隣の学校と統合する」とか「義務教育学校を新設する」という割合が高いので、保護者の方はそれを求めておられるのかなと思います。

○小原会長 ありがとうございます。20年、30年先を見るとこのままでどうやって子供たちの質保証をしていくかという視点を入れるとなかなか解が難しいのです。

○委員 少子化やグローバル化がますます進んでいく将来を思うと、一定規模の集団の中での学びというのは子供たちの将来に絶対、有益であると思います。その意味で竹原市の10年後を見据えた場合、ブロックごとの義務教育学校の設立というのは必要であるし、さらに20年後を見た場合にはもう、義務教育学校の統合も視野に入れておく必要があると思います。

○小原会長 ありがとうございます。

○委員 アンケートの結果や皆さんの御意見を伺う中で、保護者の皆さんもしっかり面倒を見てやってほしいと思われていて、その結果として関わせる学習もですし、個に応じたということもあると思います。しっかりと地域のことも考えてほしいということも皆様の御意見の中にたくさんありましたので、そこはやはり外してやむを得ないという形ではなく、しっかり面倒が見れるとかあるいは面倒を見てあげられるといったような、質保証とか責任といったことがしっかり裏打ちされたような設計をしなければいけないということを非常に感じました。

○小原会長 ありがとうございます。

○委員 私の意見といたしましては、ブロック制の再編というのは、このブロック制というのが中学校区で4つに分かれているということがなじみが深くなってきていますので、その中を分けるというのは個人的には厳しいかなと思います。吉名学園設立の経緯の中で、私が感じていたのは町から中

学校がその内なくなるであろうと、そのなくなる猶予期間を延ばすために小中一貫校を作っていたらこうという形で会議を進めていた記憶があります。ですので、20年後はもちろん人数的にも竹原市内で一つの小中学校というふうになるのが、皆さんもそうなるんだろうなとうすうす感じられていると思うのですが、それまでの猶予期間として北部地区でも義務教育学校をつなぎという言葉が悪いですが、作ってそれまでに備えるという形、逆に現在の竹原中学校と竹原中学校区の4つの小学校を現段階ですぐ義務教育学校というのは竹原の規模的には厳しいのかなと思っていますので、一つになる時にそこはまとめてという流れになれば、20、30年後ちょうどいい流れになるのではないかと思います。

○小原会長

委員さんの中にもそれぞれ多様な意見があるということもよくわかりました。なかなか一つにまとめていくということは容易なことではないとわかっているのですが、少子化が進んでいって仕方がないので、嫌々妥協してくださいではなくて、これをするによってむしろ明るい未来を創りだすんだという視点で考えていかないといけないのではないかと思います。私個人は、竹原学園、竹原学園の中に忠海校、吉名校、賀茂川校、竹原校というふうに、UCLAのようなもので全体としては、ユニバーシティ オブ カリフォルニアですけれども、その中でそれぞれ独自の地域性に合わせた特色ある教育を展開していて、全体としては竹原教育が目指されているというそんな未来が20、30年先には出てくるのではないかなと考えます。でも、子供たちは毎年育っていくわけですから、その子供たちに竹原市の置かれている状況の中で最大の教育力を用いて、子供たちの力を引き出していくためにはどういふシステムが良いのかということ、そう簡単に結論が出るわけではありませんけれども、少し前を向いてどういふ可能性がありうるのか、次回はそのプラン作りに入っていくと思いますので、次回までに委員さん方それぞれ考えていただければありがたいかなと思います。最後一つにまとめるのは難しいと思いましたので、

そういう議論がなされて多様な意見が出され、新しい方向性を出していこうということになったと集約させていただければと思います。

○小原会長 それでは、続いて、議事（５）「その他」ですが、委員の皆様から何か適正配置に関して意見等ありましたら、お願いします。

○小原会長 ないようでしたら、以上をもちまして、第４回竹原市立学校適正配置懇話会を閉会いたします。

令和３年９月２日 午後３時３０分閉会